



★水稲倒伏の陰に潜む病害 — イネ小粒菌核病に注意★

令和 7 年 9 月、山城地域において原因不明の葉枯れ・株枯れおよび倒伏の相談が山城北農業改良普及センターにあり、調査の結果、同センターにおいて「イネ小粒菌核病^{*1}」と診断されました。

今年は水稲の倒伏が例年より多く、高温による紋枯病の多発が疑われていましたが、イネ小粒菌核病が原因となっている可能性もあるため、注意が必要です。イネ小粒菌核病が原因の場合は、株元の葉鞘に黒い斑や菌核がありますので、確認してください。

* 1：小粒菌核病は、小球菌核病と小黑菌核病を含めた総称である。

1 被害の特徴

小粒菌核病は前年の菌核が水際葉鞘から感染し、穂ばらみ期以降に稈や穂部へ進展、倒伏や登熟障害を引き起こします。イネの止葉の先が枯死し（写真 1）、しだいに下位葉の葉先に広がり、やがて株全体が枯死する場合と（写真 2, 3）、倒伏し（写真 4）、株元に黒斑や黒色菌核が見られる場合があります。

2 診断のポイント

稈に黒色病斑が見られ（写真 5）、葉鞘に黒色の小さな菌核が多数見られます（写真 6）。稈の下位節間の黒変部の細胞内に、イネ小球菌核病菌の分生子柄および分生子が見られます（写真 7, 8）。

3 発生しやすい条件

発病適温は 28～30℃と高温です。高温時に出穂・登熟する早生品種、早植栽培で発生が多い傾向があります。秋落ち水田、あるいは根腐れを起こしやすい栽培管理をしていると登熟期に激発しやすいです。

4 防除対策

- ・被害わらは、持出や焼却等により処分します。
- ・秋落ち水田で多発しますので、けい酸加里や鉄を含有する土壤改良資材を施用します。
- ・窒素肥料の過用は発病を助長します。
- ・深水と早期落水は発病を助長します。
- ・登録農薬は、フジワン粒剤があります（表）。



写真1（止葉の先枯症状）



写真2（発生状況）



写真3（株全体枯死）



写真4（倒伏状況）



写真5（稈上の病徴）



写真6（葉鞘上：黒色菌核）

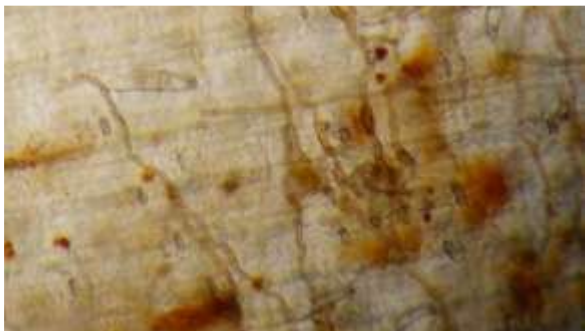


写真7（分生子柄）



写真8（分生子）

（写真提供：山城北農業改良普及センター）

表 稲で小粒菌核病に登録のある農薬（令和7年11月6日現在）

農薬名	作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イブ・ロランを含む農薬の総使用回数
フジワン粒剤	稲	小粒菌核病	4～5 kg /10a	出穂10～30日前 但し、収穫30日前まで	2回以内	湛水散布	3回以内（移植前は1回以内、本田では2回以内）